

経営比較分析表（令和6年度決算）

香川県 さぬき市

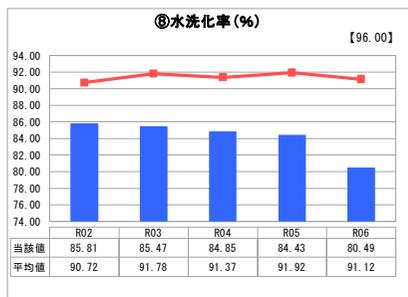
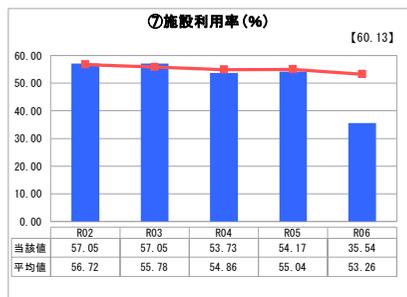
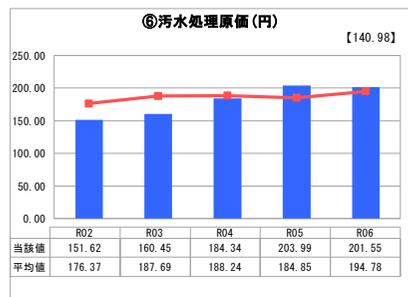
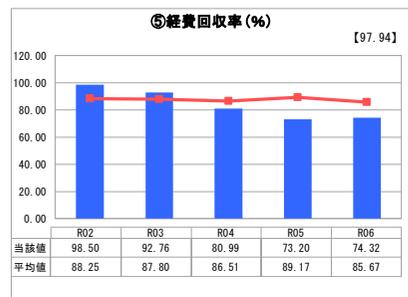
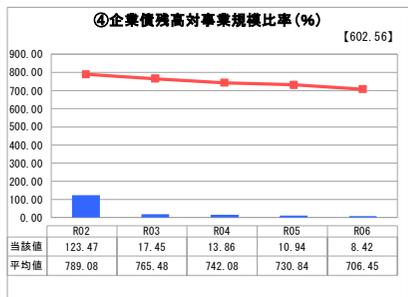
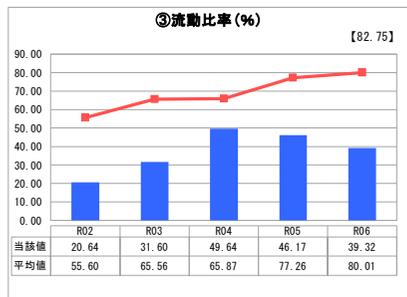
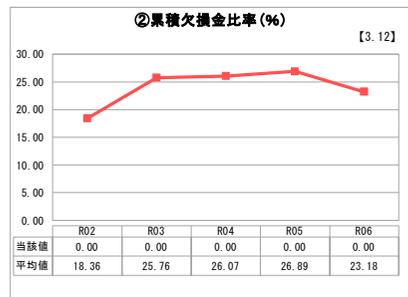
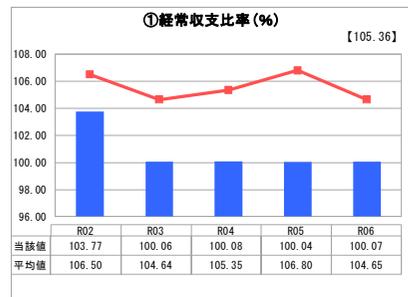
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Od1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	75.20	37.87	68.87	2,750

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
44,348	158.62	279.59
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
16,649	7.15	2,328.53

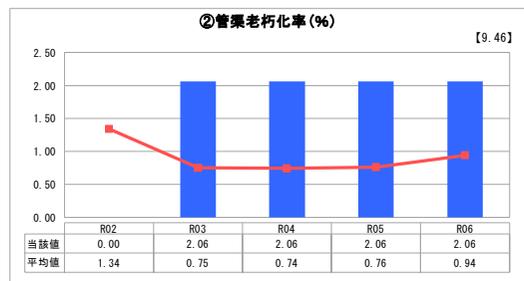
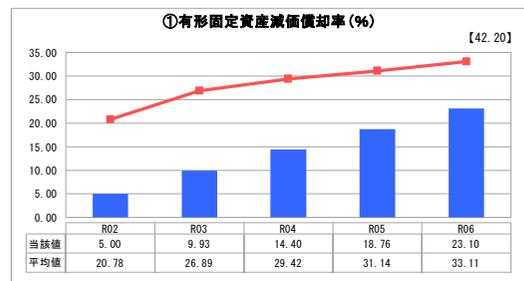
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

① 経常収支比率については、100%を上回っているものの、一般会計からの繰入金に依存している状況である。

② 流動比率については、類似団体平均値と比較して低い数値となっているが、流動負債は建設改良費に充てられた企業債であり、流動資産のほとんどが一般会計からの繰入金であることが要因である。

③ 企業債残高対事業規模比率については、明確な数値基準がない指標であるが、一般的に値が低い方が望ましいとされている。本市においては、企業債元金の償還を一般会計からの繰入金で賄っていることが低い数値の要因である。

④ 経費回収率及び⑥汚水処理原価については、類似団体平均値と比較して、概ね良好な数値となっているが、今後は、施設の老朽化や価格高騰により、管理費の増大が懸念される。

⑦ 施設利用率については、明確な数値基準がない指標であるが、年間を通じて少雨であったため合流区域における処理量に変動があり、老朽化に伴う不明水も増加していることから、今後は、不明水対策を検討する必要がある。

⑧ 水洗化率については、類似団体平均と比べ、下がっているが、経済的要因、地理的要因等により、実情に応じた汚水処理を実施していることが要因である。

2. 老朽化の状況について

① 有形固定資産減価償却率については、令和2年度に法適用企業へ移行した際に、それまでの減価償却累計額相当分を控除した数値としたため、類似団体平均と比べ、大幅に下がっているが、実際には、老朽化が進行している施設・設備も多いことから、引き続き、改築更新事業を実施していく。

② 管渠老朽化率については、近年、法定耐用年数を経過した管渠も出てきており、今後益々増加することが懸念されているが、事業開始以降、大規模な更新を実施していないため、今後については、法定耐用年数の経過に伴い、長寿命化に向け、随時更新していく必要がある。

全体総括

本市における経営状況は、人口減少に伴う収入減や老朽化に伴う経費の増加など、決して安定しているとは言えないものの、使用料収入については、大幅な減少はなく、企業債残高についても減少傾向が見られることから、今後とも引き続き、水洗化率の向上を図る一方で、老朽化に伴う更新においては、ネットワーク化、ダウンサイジング等を考慮しつつ、事業費削減による企業債発行の抑制、経費削減に努めていくことにより、持続可能な下水道経営を目指す。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。